

# 平成 29 年度（2017 年度） 事業報告

自 平成 29（2017）年 4 月 1 日  
至 平成 30（2018）年 3 月 31 日

公益社団法人 日本国際民間協力会  
京都本部：京都市中京区六角通新町西入西六角町 101 番地

## 平成 29 (2017) 年度事業報告

【平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日】

### A. 環境保全事業 (当該年度：総事業収入 44,574,348 円、総事業支出 43,871,768 円)

1. ケニアにおける水・衛生環境に配慮した総合村落開発支援（ケニア・カカメガ県）・・・継続 (5 頁)
2. 琵琶湖周辺域における地域の生物多様性保全モデルの構築（日本・滋賀県）・・・継続 (11 頁)

### B. 技術協力事業 (当該年度：総事業収入 301,489 円、総事業支出 294,817 円)

1. フィリピン産業復興支援（フィリピン・レイテ島）・・・継続 (16 頁)

### C. 保健医療事業

実施なし

### D. 緊急災害援助事業 (当該年度：総事業収入 286,669,724 円、総事業支出 296,608,529 円)

1. 東日本大震災被災者支援（日本・宮城県、岩手県他）・・・継続 (20 頁)
2. シリア人道支援（ヨルダン・ザルカ県他）・・・継続 (25 頁)
3. 2014年のガザにおける人道危機の被害者に対する支援（パレスチナ暫定自治区ガザ地区）  
・・・平成30年3月31日に助成期間が終了 (33頁)

### E. 調査事業 (当該年度：総事業収入 262,585 円、総事業支出 741,055 円)

1. 調査・評価 (40 頁)

### F. 広報啓発事業 (当該年度：総事業収入 3,006,005 円、総事業支出 4,874,127 円)

1. 広報啓発 (44 頁)

## ～用語説明～

### 1. エコサントイレ

エコロジカルサニテーション（環境衛生式）トイレの略。NICCO が過去にベトナム、マラウイ、ケニア等で導入したモデルはし尿（便と尿）を分離して処理し、栄養分の多い尿はすぐに希釈して畑に還元し、便は便層に滞留させ、灰をかけて pH を上げてアルカリ性にすることで半年程度かけて衛生化し、土壌改良剤として畑に還元することが可能となる。

## 平成 29（2017）年度事業報告概要

2017 年度の NICCO は、刻々と変化する国際情勢、変動する地球環境に合わせ、緊急人道支援、環境に配慮した自立支援、人材育成をアジア、中東、アフリカで実施した。

緊急人道支援では、中東において、ガザでの戦闘やシリアでの紛争によって苦しむ中東の一般市民に対して支援を実施した。日本国内では、震災から 7 年目を迎えた東日本大震災にも引き続き全力を傾けて取り組んだ。

コミュニティの経済的発展と環境の保全を両立させながら持続可能な社会を目指してケニアや滋賀県東近江市にて、地域住民の経済的自立支援を実施した。

技術協力事業として、フィリピンではハイエン台風の被災地域の家屋修繕を終え、新たに地元住民の主な生業である農業や漁業など産業の復興を支援するための調査に入った。支援活動の内容について現地で住民へのヒアリングや行政との交渉に入り、ココナッツなどの植林活動を進めている。

広報啓発事業として、途上国での自立支援や人道支援の必要性について広く市民に訴えかけるため会誌の制作と配布、ウェブサイトなどインターネットメディアを使った情報発信、マスコミからの取材対応、講演活動やイベントなどを行った。

これらすべての活動は、会員、寄付者、支援者、役職員それぞれが出来ることを、途上国や東北の被災者のために一丸となってい、達成したものであると言える。

## A. 環境保全事業

### 1. ケニアにおける水・衛生環境に配慮した総合村落開発支援

(ケニア・カカメガ県)・・・継続

### 2. 琵琶湖周辺域における地域の生物多様性保全モデルの構築

(日本・滋賀県)・・・継続

【公1】環境保全事業（ケニア農村）

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名    | ケニアにおける水・衛生環境に配慮した総合村落開発支援事業<br>(略称：ケニア農村)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 事業地    | ケニア共和国・カカメガ郡                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事業期間   | 平成25年(2013年)9月から平成29年(2017年)11月(4年2ヶ月)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 資金供与団体 | 外務省日本NGO支援無償資金協力、NICCO会費及び寄付金                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 事業収支   | 【総事業収入】40,058,102円(予算額41,479,771円)<br>【総事業支出】40,245,015円(予算額41,786,373円)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業目的   | カカメガ郡ブシアンガラ村における、エコサントイレを活用した公衆衛生改善・農業生産性の向上、植林と改良かまどの導入による森林資源の確保、井戸修繕による水資源の確保、収入向上や女性の地位向上による総合的村落開発による、ケニアでの持続的な村落運営のモデル構築。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 裨益者    | ブシアンガラ村：1,614世帯(8,203人)、間接裨益者数：約23,000世帯                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業内容   | ①エコサントイレ建設 ②植林と改良かまど建設 ③井戸修繕・パイプライン建設・水キオスク建設による上水供給 ④収入創出活動 ⑤女性の地位向上活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 事業成果   | <p>①エコサントイレ計83基の建設(学校など公共施設22基、家庭61世帯)。事業末にモニタリング・アンケート調査を実施し、エコサントイレを建設した家庭では建設前より下痢の発生回数が減っていること、病原菌の媒体となるハエの数がエコサントイレ内では、村で従来使われていたPit Latrine(穴を掘っただけのトイレ)内のものに比べ31%少ないことを確認。調査を共同で行った保健省機関からは、エコサントイレの衛生改善における有用性を証明する正式文書が発行された。</p> <p>②樹木管理に関するワークショップ実施(参加者343世帯(約2,580名)に約本の薪木用苗木を配布、植林を行い約66.8%以上の苗の活着を確認。改良かまどを学校等に5基建設。自費での改良かまど建設を希望する11世帯の家庭にかまどビルダーを派遣、建設。改良かまどワークショップを実施した(35名が参加)。建設した改良かまどはケニアの農村で一般的に使われている三石かまどよりも薪の使用量を削減出来ている(実験では約22%の削減)、また安全性・健康面でも優れている。</p> <p>③深井戸1基建設。水道パイプの約7kmの延長。水キオスク1棟の建設。井戸管理委員の組織強化(水道料金徴収制度の確立、公的登録、銀行口座開設等)。</p> <p>④有用樹・果樹ワークショップ実施(参加者138世帯に2,043本を配布、植林し、約80%の苗が活着したことを確認)。有用種子ワークショップと種子リファインド。有用樹や有用種子から加工品を製造し、近辺のマーケットで販売。</p> <p>⑤種苗場2基を農産加工施設敷地内へ移転。同敷地内に種苗場4基を追加建設。</p> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の公益性 | (1) 技術協力・人材育成について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|        | <p>【チェックポイント1】</p> <p>講座・セミナー・育成が不特定多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置づけ、適当な方法で明らかにしているか？</p> <p>当該活動は、エコサントイレの導入による衛生改善と収入創出を促す持続可能な農業モデルづくりにより、現地村民への人材育成、技術移転等を通じて、コミュニティ全体の持続的な環境保全や衛生改善、貧困削減を目指すものであり、不特定多数の者の利益の増進に寄与している。</p>                                                                                                                                          |
|        | <p>【チェックポイント2】</p> <p>当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか？</p> <p>村民への衛生改善や農業、水管理に関する講習会は対象地域の全村民を研修受講対象者としており、参加希望者の募集に際しては、自治体や住民の協力のものと、広く告知を行うことで一般に受益の機会を開いている。</p>                                                                                                                                                                                                           |
|        | <p>【チェックポイント3】</p> <p>当該講座等及び専門知識・技能等の確認行為に当たって、専門家が適切に関与しているか？</p> <p>専門知識を有する現地政府の農林業技師やエンジニア等が、講習会での指導やモニタリングを通して、参加者が技術指導の内容を適切に理解しているか、十分な確認を行っている。また、エコサントイレ及び改良かまど建設に関しては日本人建築専門家の現地派遣を通じて、参加者が技術指導の内容を適切に理解しているかテストなどを通して十分に確認を行っている。</p> <p>また、環境保全型農業に関する専門的知見を有する理事が監督している他、必要に応じて、年に数回事業地に専門家を派遣し、講師として研修会を実施し、活動にあたっての助言を得ており、事業の運営に際して、専門家が適切に関与している。</p> |
|        | <p>【チェックポイント4】</p> <p>講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか？</p> <p>本会で設定している「専門家報酬支払規定」に基づき報酬を支払っている。当該規定は、他のNGO団体の水準と同程度である。また、現地講師に対する報酬も、事業地で活動する他のNGO等の給与額の平均的な水準をもとに設定している。したがって、いずれにしても過大な報酬水準にはなっていない。</p>                                                                                                                                                               |
|        | (2) 資機材、施設、医薬品、救援物資等の供与について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|        | <p>【チェックポイント1】 事業目的</p> <p>現地の貧困農家及び公共施設の経済的自立、食糧増産、薪資材・森林資源の確保を目的に、果樹や有用樹木、ケニアの自生種の苗木の配布、トイレ及びかまど資機材等の供与を実施するものであり、特定少数の者の利益の増進を目的としたものではなく、不特定多数の利益の増進に寄与するものである。</p>                                                                                                                                                                                                 |
|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <b>【チェックポイント2】 事業の合目的性</b>                                                                                                                                                                                                                                                  |
|       | <b>【ア】 受益の機会の公開</b>                                                                                                                                                                                                                                                         |
|       | 貧困農家への環境保全型農業の技術移転等による貧困削減と環境保全を目的としたものであり、特定の者の利益の増進を目的としたものではない。そのため、対象地域内の全農家を受益対象者としており、受益の機会については広く周知して、一般に開いている。                                                                                                                                                      |
|       | <b>【イ】 事業の質を確保するための方策</b>                                                                                                                                                                                                                                                   |
|       | 資機材の導入に当たっては、現地専門家、もしくは専門的知識を有する現地スタッフが、資材の仕様やニーズの合致性、品質などについて確認することで、事業の質の確保を図っている。                                                                                                                                                                                        |
|       | <b>【ウ】 審査・選考の公正性の確保</b>                                                                                                                                                                                                                                                     |
|       | 資機材供与は、審査・選考を伴うものではない。                                                                                                                                                                                                                                                      |
|       | <b>【エ】 その他</b>                                                                                                                                                                                                                                                              |
|       | 現地の貧困農家の経済的自立と環境保全を目的に資機材供与を行うものであり、特定の業界団体の販売促進、共同宣伝につながる要素は一切存在しない。                                                                                                                                                                                                       |
|       |                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事業の評価 | <b>①妥当性（プロジェクト実施の正当性、必要性を問う）</b>                                                                                                                                                                                                                                            |
|       | エコサントイレの導入をきっかけに、衛生面の不安、農業生産性の低さ、女性の経済活動に対する偏見の解決・改善を目指した本事業は、これらの問題をいずれも抱えるケニア・カカメガにおいて、有用であり、事業地のニーズに合致したものだったと言える。また、井戸や水キオスクの建設、水パイプの敷設についても、有料にも関わらず利用希望者が後を絶たなかったことから、事業地のニーズに応えたものだったと言える。裨益者となる事業地住民については、そのほとんどが農業に従事しており、エコサントイレを最も有効に活用できる状況にあり、適当なターゲットグループだった。 |
|       | <b>②有効性（プロジェクトの効果を問う）</b>                                                                                                                                                                                                                                                   |
|       | プロジェクトの目標については、申請書上でコンポーネントごとに複数の指標を具体的数値で示しており明確であった。そして事業の終了時点において、そのほとんどすべての項目で目標を達成した。その達成成果も、目標同様に数値で表されており明確である。今後、この達成された成果を裨益者がいかに有用に利用していけるかどうかについては、エコサントイレの正しい使用、管理ができるかどうかにかかっている。                                                                              |
|       | <b>③効率性（プロジェクトの効率性を問う）</b>                                                                                                                                                                                                                                                  |
|       | アウトプットの達成度については、事業前に設定した目標値にいずれも到達またはそれを上回ったことから、予算設計は適当であり、それに基づいた支出も同じく適当だったと言える。事業で必要となったサービスや資機材、雇用の提供元の選定は、全て価格と質のバランスをよく考慮した上で行われた。事業を実施していく上でその進捗がケニアの政治的事情（大統領選挙など）によって左右されることがあった。特に3ヵ年事業の最終年次中に発生した大統領選の                                                          |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>混乱は、事業地における物価の高騰や治安の不安定化、行政手続きの遅延を招き、対応を迫られ、効率性を維持するために解決すべき阻害要因となった。</p> <p><b>④インパクト（プロジェクトの長期的、波及的効果を問う）</b></p> <p>エコサントイレの導入による事業地の衛生改善、持続可能な農業の確立、収入創出を目指した本事業における上位目標は、ケニア政府の目指す、衛生環境改善、農業生産性の向上、貧困の撲滅のいずれの計画にも合致したものであった。そしてそれらの目標は、事業の経過とともに裨益者の理解が進んだことで、エコサントイレの広まりが加速し、十分に達成できたと言える。事業期間中、注意しなければならない外部的影響としては、ケニアの不安定な政治状況が挙げられる。また、昨今の気候変動も予測できない影響をもたらすものであった。他にもケニアに根付く独特の事情としては、部族間の激しい政治的対立がある。</p> <p><b>⑤自立発展性（事業終了後の持続性を問う）</b></p> <p>事業成果を引継ぐ組織として、事業期間中にコンポーネントごとに委員会を立ち上げた。引継も十分な時間をかけて行い、本事業の目指す効果を事業後も維持・発展させていけるものと考えている。水道事業を引き継いだ井戸管理委員会については、安定した利益を得やすいコンポーネントであり、事業終了時点での資金も潤沢であったことから、その持続性について不安は少ない。他のエコサントイレ、女性の地位向上、農畜産の各コンポーネントについては、いずれもエコサントイレが中心となっている性格上、エコサントイレの正しい使用を事業地住民が継続していけるかどうか重要な要素になると思われる。このエコサントイレの正しい使用については、事業期間中に繰り返し行ったワークショップを通じて、事業地に浸透しており、今後もエコサントイレ委員会が独自にワークショップを実施していく予定となっている。</p> |
| 事業の展望 | <p>既に本事業は終了しており、今後については既に事業地に残した委員会、そしてともに事業を行ってきた裨益者たちの手にかかっている。本会としては既に十分に成果の引継ぎを行っており、現在は見守る立場にある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |



写真報告



【写真 1】エコサントイレを建設するビルダーたち。一基の建設に対し通常 2 人のビルダーが作業に当たる。建設期間は 8～10 日間。(2017 年 4 月)



【写真 2】便槽部分を地中に埋めバリアフリー化したエコサントイレ。裏側に掘られた穴から肥料の取り出し口へアクセスが可能となっている。(2017 年 5 月)



【写真 3】井戸の掘削工事。第 1 年次の 1 基に加え、第 3 年次にもう 1 基を Shilandaro 村に建設。さらに広い範囲への水供給が可能となった。(2017 年 5 月)



【写真 4】Shikangania 村の井戸にソーラパネルを設置して電気料金を下げ、安価な水の供給を実現。画面右下は、本会本部スタッフ（岡田）。(2017 年 3 月)



【写真5】本会撤退を見据えた、水道システム運営の現地委員会への引継ぎ集会を実施。村民からの質問に答える本会の現地駐在員（西岡）。(2017年9月)



【写真6】ワークショップ後は果樹・有用樹の苗を配布。(2017年9月)



【写真7】子供たち向けに有機農業の講習会を行う専門家一行。写真中央は水資源専門家（松井三郎）。(2017年4月)



【写真8】女性の地位向上委員会のメンバーが家庭で手入れしているキッチンガーデン。写真手前は、農業専門家（小野修）（左）とコミュニティ開発専門家（小野了代）（右）。(2017年4月)

【公1】環境保全事業（琵琶湖生物多様性）

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名    | 滋賀県東近江市愛知川沿岸地区における生物多様性保全を目指した農業モデルの形成と人材育成（略称：琵琶湖生物多様性事業）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 事業地    | 日本国内（滋賀県東近江市）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 事業期間   | 平成26年（2014年）4月から平成31年（2019年）3月（5年）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 資金供与団体 | トヨタ環境活動助成プログラム、経団連自然保護基金、NICCO 会費及び寄付金                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 事業収支   | 【総事業収入】4,516,246円（予算額4,539,161円）<br>【総事業支出】3,626,753円（予算額4,544,579円）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業目的   | 地域の生物多様性保全を目的とした環境保全型有機農業による農作物の生産、手法伝達、事業地近隣農家の経済的自立を通し、持続可能な共生モデルを発信することを目指す。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 裨益者    | 直接裨益者：約100人、間接裨益者：約300農家（東近江市の販売農家のうち主業農家数）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 事業内容   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) これからの農業を支える人材育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業研修のための実践圃場の整備・研修員受け入れ</li> <li>・有機農業の技術や知識を普及するためのネットワークの構築</li> </ul> </li> <li>2) 環境保全や生物多様性を守るための農業の実践と普及 <ul style="list-style-type: none"> <li>・無農薬・無化学肥料による農作物栽培と販売の実施</li> <li>・有機養鶏の実践、生産物の販売</li> </ul> </li> <li>3) 環境保全・生物多様性保全の促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きものや土壌などのデータ採取による生物多様性の調査</li> </ul> </li> </ol>                                                                                                        |
| 事業成果   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) これからの農業を支える人材育成<br/>田植えと稲刈りなどのイベント開催し、日本、アフリカ・アジアから延べ70人が参加した。うち留学生など外国人が50名参加した。これらのイベントでは、有機栽培の意義や手法、環境保全と有機農業について考える場も提供することが出来た。</li> <li>2) 環境保全や生物多様性を守るための農業の実践と普及<br/>野菜や果物における有機栽培を行ったほか、2018年度の作物拡大のためのビニールハウスの張替、土壌の準備等を進めた。鶏舎を2つに間仕切りし、2サイクルで飼育できるようになった。滋賀県の地鶏「近江しゃも」を飼育し、季節ごとの温度管理などの知見を得ることが出来た。鶏肉のサンプル品の配布を、滋賀県を中心に行った。成長ホルモンや抗生物質を使用していないため、肉質が良く油切れも良いさっぱりとした鶏肉に仕上がり好評を得た。</li> <li>3) 環境保全・生物多様性保全の促進<br/>田植えや稲刈りのイベント時に、水生生物や植物について観察を行い一般的な水生生物が確認できた。養鶏については、飲み水に乳酸菌などを混ぜ</li> </ol> |



|        |                                                                                                                                                                            |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>て摂取させ、抗生物質などを一切使わなかったが、ニワトリが病気で死ぬことはなかった。引き続き、薬剤を使わずに行う養鶏の可能性を検証していく。</p>                                                                                               |
| 事業の公益性 | <p>(1) 技術協力・人材育成について</p>                                                                                                                                                   |
|        | <p><b>【チェックポイント1】</b><br/>講座・セミナー・育成が不特定多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置づけ、適当な方法で明らかにしているか？</p>                                                                                |
|        | <p>有機農業に関心のある農家や学生・留学生、一般の方などを広く対象に実践的ワークショップを開催しており、不特定多数の者の利益の増進に寄与している。</p>                                                                                             |
|        | <p><b>【チェックポイント2】</b><br/>当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか？</p>                                                                                                                    |
|        | <p>実施する講座および農作業体験等の参加者募集は、当会ウェブサイト等で、広く一般に向けて告知の上で行っており、一般に受益の機会を開いている。</p>                                                                                                |
|        | <p><b>【チェックポイント3】</b><br/>当該講座等及び専門知識・技能等の確認行為に当たって、専門家が適切に関与しているか？</p>                                                                                                    |
|        | <p>生物多様性保全や有機農業・養鶏等に関する専門的知見を有する理事及び専門家が監督しており、活動および事業の運営に際して、専門家等が適切に関与している。</p>                                                                                          |
|        | <p><b>【チェックポイント4】</b><br/>講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか？</p>                                                                                                                |
|        | <p>本会で設定している「専門家報酬支払規定」に基づき報酬を支払っている。当該規定は、他のNGO団体の水準と同程度である。また、現地講師に対する報酬も、事業地で活動する他のNGO等の給与額の平均的な水準をもとに設定している。したがって、いずれにしても過大な報酬水準にはなっていない。</p>                          |
|        | <p>(2) 資機材、施設、医薬品、救援物資等の供与について</p>                                                                                                                                         |
|        | <p><b>【チェックポイント1】 事業目的について</b><br/>生物多様性保全と有機農業の普及を目的に、有機農業用の資機材や建設資機材等の供与を実施するものであり、特定少数の者の利益の増進を目的としたものではなく、不特定多数の利益の増進に寄与するものである。</p>                                   |
|        | <p><b>【チェックポイント2】 事業の合目的性</b><br/><b>【ア】 受益の機会の公開</b><br/>生物多様性保全と有機農業の普及を目的としたものであり、特定の者の利益の増進を目的としたものではない。そのため、対象地域内だけでなく、広く一般の方も対象者としており、受益の機会については広く周知して、一般に開いている。</p> |

|       |                                                                                                                                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p><b>【イ】 事業の質を確保するための方策</b></p> <p>資機材の導入に当たっては、有機農業・養鶏等の専門家、もしくは専門的知識を有する者が、資材の仕様やニーズの合致性、品質などについて確認することで、事業の質の確保を図っている。</p>                                                |
|       | <p><b>【ウ】 審査・選考の公正性の確保</b></p> <p>資機材供与は、審査・選考を伴うものではない。</p>                                                                                                                  |
|       | <p><b>【エ】 その他</b></p> <p>生物多様性保全と有機農業の普及を目的に資機材供与を行うものであり、特定の業界団体の販売促進、共同宣伝につながる要素は一切存在しない。</p>                                                                               |
|       |                                                                                                                                                                               |
| 事業の評価 | <p><b>①妥当性（プロジェクト実施の正当性、必要性を問う）</b></p> <p>生物多様性保全や食の安全は、人間の生活の基礎であり、農業が盛んな対象地域において普及を進めることは、社会的なニーズに合致している。</p>                                                              |
|       | <p><b>②有効性（プロジェクトの効果を問う）</b></p> <p>本事業は、環境保全型の農業の普及のためのモデル形成であり、農業を産業として成立させることを目指している。しかしながら、栽培方法、飼育方法の確立には、時間を要するため、現段階の成果は、継続して試行錯誤を行うことが出来ている点である。</p>                   |
|       | <p><b>③効率性（プロジェクトの効率性を問う）</b></p> <p>生物多様性保全という大きな目標に対して、モデル形成という目標設定は、効率的である。しかしながら今まで例のないモデルを形成するためには、試行錯誤の時間を要する。養鶏においては、雛から成鳥までの生存率が低いいため、改善が必要である。また、鶏肉の販路の確保も遅れている。</p> |
|       | <p><b>④インパクト（プロジェクトの長期的、波及的効果を問う）</b></p> <p>生物多様性保全を目指した新しい栽培・飼育方法のモデル確立という成果を出すまでには時間を要するが、並行して市民に対して農業体験などの啓発活動を行い、環境問題への関心を高めることが出来ている。</p>                               |
|       | <p><b>⑤自立発展性（事業終了後の持続性を問う）</b></p> <p>生物多様性保全に主眼を置いた養鶏の方法や果物の栽培方法や経済的な自立方法を確立することにより、その方法が普及することが出来る。具体的には有機農業を実施する農家が増加し、農薬や化学肥料による環境の汚染から圃場を守り、生物多様性を保全することが出来る。</p>        |
|       |                                                                                                                                                                               |
| 事業の展望 | <p>2018年度は経団連自然保護基金の助成の最終年度であるため、事業の成果を「見える化」することが求められている。</p> <p>養鶏に関しては、雛から販売可能な成鳥までの生存率を上げることと、販路を探すことを目標としている。また、養鶏がビジネスモデルとして確立されることも期待される。</p>                          |

写真報告



【写真1】田植えイベントに参加する若者たち。  
(2017年5月13日)



【写真2】田植えイベントに参加した留学生と、  
日本人参加者 (2017年5月13日)



【写真3】鶏舎内の様子。雛の生育に適正な温度  
管理と、圧死しないように段ボールによって形は  
円形にし、温度調節のためにこたつ用の電熱器を  
組み合わせた寝床を作成した。(2017年8月24日)



【写真4】鶏舎内の様子。有機米を飼料として与  
えている。(2017年8月24日)



【写真5】稲刈りイベント時、束にまとめた稲穂  
を乾燥のため干す作業は参加者が協力して行っ  
た。(2017年10月14日)



【写真6】稲刈りイベント時、環境問題などのク  
イズで啓発を行った。(2017年10月14日)

## B. 技術協力事業

### 1. フィリピン産業復興支援

(フィリピン・レイテ島)・・・継続

【公2】技術協力事業（フィリピン産業復興）

|        |                                                                                    |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名    | フィリピンにおける台風ハイエン被災地域における産業復興支援<br>(略称：フィリピン産業復興)                                    |
| 事業地    | フィリピン・レイテ州カポオカン町                                                                   |
| 事業期間   | 平成28年(2016年)4月1日から平成30(2018年)3月31日(2年)                                             |
| 資金供与団体 | 京都洛南ロータリークラブ、NICCO 会費及び寄付金                                                         |
| 事業収支   | 【総事業収入】301,489 円(予算額 311,361 円)<br>【総事業支出】294,817 円(予算額 311,416 円)                 |
| 事業目的   | 対象地域において、情報通信技術を活用し農村等の産業振興のための開発モデルを構築する                                          |
| 裨益者    | 8,058 世帯(約 33,615 人)                                                               |
| 事業内容   | ① 植林事業の実施準備と事業形成に向けた現地調査<br>② 事業実施に向けた資金調達のための助成金等への申請作業                           |
| 事業成果   | 住民、カポオカン町、研究機関等を通して、より実現可能な事業形成を行っている。JICA や京都洛南ロータリークラブとの新たな助成金獲得に向けての話し合いが進んでいる。 |
| 事業の公益性 | (1) 技術協力・人材育成について                                                                  |
|        | 【チェックポイント1】<br>講座・セミナー・育成が不特定多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置づけ、適当な方法で明らかにしているか？       |
|        | 苗等の配布は全農家を対象とした中から、優先順位をつけて、配布を実施する方向で計画している。(配布は未実施)                              |
|        | 【チェックポイント2】<br>当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか？                                           |
|        | 事業説明は対象地区の全住民に開かれている。                                                              |
|        | 【チェックポイント3】<br>当該講座等及び専門知識・技能等の確認行為に当たって、専門家が適切に関与しているか？                           |
|        | 農業資機材の配布等に関しては地元の農業局や大学・研究機関等からの助言を受けている。                                          |
|        | 【チェックポイント4】<br>講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか？                                       |
|        | 謝金等の報酬の支払いは発生していない。                                                                |
|        | (2) 資機材、施設、医薬品等の供与について                                                             |
|        | 【チェックポイント1】 事業目的について                                                               |
|        | 本事業では、事業対象地域の住民の主な生計手段である農業を中心に、地域全体の発展を支援することを目的にしている。                            |



|       |                                                                                                                            |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <b>【チェックポイント 2】 事業の合目的性</b>                                                                                                |
|       | <b>【ア） 受益の機会の公開】</b>                                                                                                       |
|       | 植樹事業の実施に際し、住民組織が植樹用苗木の配布と管理を行うバンクシステムを導入することで、事業の直接的な裨益者以外の農家にも苗木を受け取ることができる機会を確保する。                                       |
|       | <b>【イ】 事業の質を確保するための方策</b>                                                                                                  |
|       | 植樹品目の選定や生産者組合へのバンクシステムの導入について、カポオカン町農業指導員やフィリピン・ココナッツ庁職員が指導・助言を受けた。情報通信技術の活用方法の検討や現地 IT 環境調査において、京都の IT ベンチャー企業と共同して実施した。  |
|       | <b>【ウ】 審査・選考の公正性の確保</b>                                                                                                    |
| 事業の評価 | 資機材供与は、審査・選考を伴うものではない。                                                                                                     |
|       | <b>【エ】 その他</b>                                                                                                             |
|       | 対象地区住民の生計向上を目的に資機材供与を行うものであり、特定の業界団体の販売促進、共同宣伝につながる要素は一切存在しない。                                                             |
|       | <b>①妥当性（プロジェクト実施の正当性、必要性を問う）</b>                                                                                           |
|       | ・ 事業地域の住民の年間平均所得（約 15 万円、カポオカン町職員より聞き取り）は同国全体の平均（約 58 万円、比国統計局）と比較して低い。<br>・ カポオカン町町長や村長ら、住民からも、農業を中心とした産業振興への支援要請が出されている。 |
|       | <b>②有効性（プロジェクトの効果を問う）</b>                                                                                                  |
| 事業の展望 | 事業目標を達成するための情報通信技術の活用方法や、事業地域の情報通信環境について精査し、その手段を明確化することが必要である。                                                            |
|       | <b>③効率性（プロジェクトの効率性を問う）</b>                                                                                                 |
|       | 過去 2 年間に渡る活動を通して培った経験をもって、より効果的・効率的な案件形成に取り組んでいる。                                                                          |
|       | <b>④インパクト（プロジェクトの長期的、波及的効果を問う）</b>                                                                                         |
|       | より長期的にインパクトのある事業となるよう案件形成の段階において調整中である。                                                                                    |
|       | <b>⑤自立発展性（事業終了後の持続性を問う）</b>                                                                                                |
| 事業の展望 | 植樹事業終了後も、住民自身の手で植樹面積を拡大していくことができるよう、苗木の配布管理を計画的に行うバンクシステムを導入する。                                                            |
|       | 農業分野に限らず、医療や教育、防災など農業以外の分野に事業の対象を広げ、事業形成が可能か検討する。                                                                          |

写真報告



【写真１】カポオカン町住民らから農業の現状の聞き取りを行う当会スタッフ佐々木（中央）（2017 年 11 月 30 日）



【写真２】カポオカン村落において果物類の昆作栽培農家を視察する NICCO スタッフ北垣（右）（2017 年 11 月 30 日）



【写真３】フィリピン・レイテ島に置ける IT 産業について聞き取り調査を行うデータ・プレジジョン佐藤氏と NICCO スタッフ北垣（2017 年 11 月 29 日）



【写真４】ココナッツ・Makapuro 種を栽培する農家に聞き取り調査を行う（2017 年 11 月 27 日）

## D. 緊急災害援助事業

### 1. 東日本大震災被災者支援

(日本・宮城県、岩手県他)・・・継続

### 2. シリア人道支援

(ヨルダン・ザルカ県他)・・・継続

### 3. 2014年のガザにおける人道危機の被害者に対する支援

(パレスチナ暫定自治区ガザ地区)

・・・平成30年3月31日に助成期間が終了

【公 4】緊急災害援助事業（東日本大震災被災者支援）

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名    | 東日本大震災被災者支援（略称：東日本）                                                                                                                                                                                                                                               |
| 事業地    | 日本国 宮城県、岩手県                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 事業期間   | 平成 23 年（2011 年）3 月から平成 30 年（2018 年）3 月（7 年継続中）                                                                                                                                                                                                                    |
| 資金供与団体 | 株式会社シュゼット・ホールディングス、NICCO 会費及び寄付金                                                                                                                                                                                                                                  |
| 事業収支   | <b>【総事業収入】</b> 4,156,564 円（予算額 4,980,654 円）<br><b>【総事業支出】</b> 12,821,381 円（予算額 13,006,340 円）                                                                                                                                                                      |
| 事業目的   | 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災者に対して、被災地ごとのニーズに基づいた援助を提供し、被災地の復旧・復興を支援。                                                                                                                                                                                             |
| 裨益者    | <b>【漁業復興支援】</b> 気仙沼市唐桑町の漁業に従事する 746 世帯、イベントなどの参加者 4,000 人。<br><b>【食に関わる支援】</b> 被災地域である岩手県大船渡市綾里地区の子ども約 160 名                                                                                                                                                      |
| 事業内容   | ① 宮城県気仙沼市唐桑町において、2014 年 4 月に竣工した陸上生簀施設「アルフルザ」を一般社団法人 Fish Market38（以下 FM38）と協力して運営することにより、地域の零細漁師の漁業継続を可能とする漁業復興支援。鮮魚及び加工品の販路拡大支援を継続して行った。また地域の子どもの達への漁業体験教室等を行うことで、地域の漁業文化の継承活動も行った。<br>② 食に関わる支援として、岩手県大船渡市の小学校・中学校で耐久年数を超え、衛生的に問題があった学校給食用食器を新品に交換するため購入し贈呈した。 |
| 事業成果   | ① FM38 に登録し活魚を買い取ってもらう利用者は 80 名になり、地域の漁師の生計向上に貢献している。地域の子どもたちを対象とした漁業体験教室の参加者は 60 人に上り、地場産業である漁業文化の継承に貢献した。<br>② 岩手県大船渡市綾里地区の小学校・中学校の児童生徒約 160 人に対して、安全な学校給食の環境を整備することが出来た。                                                                                       |
| 事業の公益性 | （1）救援物資等の供与について                                                                                                                                                                                                                                                   |
|        | <b>【チェックポイント 1】 事業目的</b>                                                                                                                                                                                                                                          |
|        | 東日本大震災被災者支援は自然災害の罹災者に対する援助を行うものであり、特定の者の利益の増進を目的としたものではなく、不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。                                                                                                                                                                                |
|        | <b>【チェックポイント 2】 事業の合目的性</b>                                                                                                                                                                                                                                       |
|        | <b>【ア】 受益の機会の公開</b><br>1. 零細漁業者支援では、裨益者となる利用者漁師（活魚をいけす施設に販売する漁師）は、唐桑およびその周辺において広く募っており、利用申し込みがあった際には、希望者が適切な資格者（漁協組合員である、小規模漁師                                                                                                                                    |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>である等)であるかどうかを確認の上、有資格者は誰でも登録を受け付けている。</p> <p>2. 食に関する支援では、岩手県大船渡市の教育委員会からの要望にこたえたものであり資機材提供について、市の教育委員会を通じて、ヒアリングを行い実施した。</p> <p>以上により、本事業による受益の機会是一般に開かれている。</p>                                                                                                                                      |
|  | <p><b>【イ】 事業の質を確保するための方策</b></p> <p>零細漁業者支援では、経営を専門とすると当会理事、税理士などの指導と監修のもとで実施されている。また、同支援は長年にわたって自然災害や地域紛争の被災者救援活動にかかわった経験が豊富で、造詣が深い理事が事業を管理監督しており、以上によって本事業による質の確保は十分に行われていると判断する。</p>                                                                                                                   |
|  | <p><b>【ウ】 審査・選考の公正性の確保</b></p> <p>本事業は、審査・選考を伴うものではない。</p>                                                                                                                                                                                                                                                |
|  | <p><b>【エ】 その他</b></p> <p>本事業は、自然災害や地域紛争の被災者を支援するという目的で実施しているものであり、業界団体の販売促進、共同宣伝につながる要素は一切存在しない。</p>                                                                                                                                                                                                      |
|  | <p>(2) サービスの提供について</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|  | <p><b>【チェックポイント1】 事業目的</b></p> <p>本事業は、自然災害や地域紛争等の罹災者に対する援助を行うものであり、特定の者の利益の増進を目的としたものではなく、不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。</p>                                                                                                                                                                                   |
|  | <p><b>【チェックポイント2】 事業の合目的性</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|  | <p><b>【ア】 受益の機会の公開</b></p> <p>1. 裨益者となる利用者漁師(活魚をいけす施設に販売する漁師)は、唐桑およびその周辺において広く募っており、利用申し込みがあった際には、希望者が適切な資格者(漁協組合員である、小規模漁師である等)であるかどうかを確認してから登録を受け付けている。よって、受益の機会是一般に開かれている。</p> <p>2. 食に関する支援では、岩手県大船渡市の教育委員会からの要望にこたえたものであり資機材提供について、市の教育委員会を通じて、ヒアリングを行い実施した。</p> <p>以上により、本事業による受益の機会是一般に開かれている。</p> |
|  | <p><b>【イ】 事業の質を確保するための方策</b></p> <p>宮城県気仙沼市唐桑町の陸上いけす施設の運営に関しては、経営を専門とする当会理事、税理士などの指導と監修のもとで実施されている。</p>                                                                                                                                                                                                   |



|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の評価 | 【ウ】 審査・選考の公正性の確保                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|       | 本事業は、審査・選考を伴うものではない。事業の目的に鑑み、公正に実施している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|       | 【エ その他】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|       | 本事業は、自然災害や地域紛争の被災者を支援するという目的で実施しているものであり、業界団体の販売促進、共同宣伝につながる要素は一切存在しない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|       | ①妥当性（プロジェクト実施の正当性、必要性を問う）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|       | <p>宮城県気仙沼市は東日本大震災で甚大な被害を受けた地域であり、復興のために必要な地場産業の活性化は、地域社会のニーズに基づいている。</p> <p>岩手県大船渡市は東日本大震災で甚大な被害を受けた地域である。校庭から仮設住宅が撤去され始め教育環境の復興が進んでいるが、その中で学校給食用食器など備品の入れ替えは後回しにされてきた。耐久年数を超え衛生的にも問題が生じていたため、教育委員会から学校給食の食器の入れ替えを要望されており、教育現場でのニーズに基づいて実施した</p>                                                                                                                                                                                       |
|       | ②有効性（プロジェクトの効果を問う）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|       | <p>アルフルザの運用を通じた零細漁師への支援は、現地で活動する FM38 が自立的に継続することが目標であり、2017 年度は助成金を得ずに、実施することが出来たのは大きな進歩だった。2018 年 1 月に FM38 がアルフルザから退去し移転した後も、FM38 を通じた零細漁師の支援は、資機材の貸し出しなどにより継続されている。しかしながら、アルフルザの運用は休止しており、新たな利用者を探している。アルフルザの効果的な利用を阻害する要因として、土地の賃借料の高さ、水産加工する際の排水の処理や、物流業者の騒音等に対する地域住民からの苦情などがある。</p> <p>岩手県大船渡市の学校給食用食器の寄贈については、教育委員会からの要望に応じて、ファンドレイジングを行い実施することが出来た。これまでの東日本大震災の中で結びつきを持った、被災地の教育委員会と被災地支援を実施している企業とのマッチングが出来たことは大きな成果である。</p> |
|       | ③効率性（プロジェクトの効率性を問う）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|       | <p>アルフルザの運営にかかる費用について、FM38 からの賃貸収入等を充てる計画であった。当年度は FM38 がビジネスで得た資金をもとに支払いを受けた。これにより目標であった FM38 の経済的な自立が確認できる。しかしながら、FM38 の退去以降、アルフルザの維持にかかる費用は NICCO の会費寄付金を充てることになり、この点において、当初の予定から変更が生じた。</p> <p>岩手県大船渡市の教育委員会への学校給食用食器の贈呈は、株式会社シュゼット・ホールディングスからの寄付金を投じた。教育委員会と協議の上、学校給食用の食器を扱う業者の三社見積もりを取得し、業者を選定した。</p>                                                                                                                            |



|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p><b>④インパクト（プロジェクトの長期的、波及的効果を問う）</b></p> <p>宮城県気仙沼市唐桑町の零細漁師の漁業支援は、継続的に達成されている。東北被災地の復興が進む中、水産業の復興も大きく進んでいるため、個人経営の零細漁師は、企業競争のなか、経営はますます厳しくなっているが、FM38 が海産物を買取る活動は地域の漁師の生計を支え、漁師と家計を共にする人たちにも効果は波及している。また地域の子どもたちに漁業体験を提供する活動は漁業文化の維持にも効果がある。アルフルザに関しては、引き続き入居者を探していく。</p> <p>岩手県大船渡市の学校給食用食器配布は、復興の過程で重要になってくる地域の将来を担う世代への教育環境整備を男女共学の公立学校への実施しており、ジェンダーや社会的階層に偏りはない。</p> <p><b>⑤自立発展性（事業終了後の持続性を問う）</b></p> <p>アルフルザの運営は、利用する団体を探し、公益的な事業を継続する。FM38 の支援は、自立的な経営を行えるようになったが、拠点を移転したことにより、環境が大きく変わった。資機材の貸与により継続していく。</p> <p>学校で使用される給食食器は教育委員会によって管理される。</p> |
| 事業の展望 | <p>2018 年 1 月に FM38 がアルフルザから移転したため、新たにアルフルザの利用者を探し、同施設を公益的な目的のために運用する。その際には漁業・水産業だけではなく、広く被災地域の復興や地域活性化、公益性がある事業を行う入居者を探す。</p> <p>また、現地からのニーズや要望を受け付けた場合、ファンドレイジングなどを含め被災地の復興に貢献できるように対応する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

写真報告



【写真1】FM38 による道の駅かわさきでの啓発活動と海産物販売（FM38 の福田氏）（2017 年 5 月）



【写真2】FM38 による東京ビッグサイト・シーフードショーでの啓発活動と海産物販売（2017 年 8 月）



【写真3】FM38 による東京ビッグサイト・シーフードショーでの啓発活動と海産物販売（2017 年 8 月）



【写真4】FM38 によるアルフルザでの小学校の漁業体験の受け入れ(写真右が FM38 の和泉氏)（2018 年 9 月）



【写真5】大船渡市綾里小学校での給食用食器の贈呈式(写真左から NICCO 大豊、シュゼット担当者、児童会会長、教育長、校長)（2017 年年 11 月）



【写真6】新しい食器で給食を楽しむ綾里小学校の児童たち（2018 年 1 月）

【公 4】 緊急災害援助事業（シリア人道）

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名    | ヨルダン・ザルカ県におけるコミュニティセンター運営及びザアタリ・キャンプにおける子ども向け心理社会的ケア事業（略称：シリア人道支援）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 事業地    | ヨルダン・ハシェミット王国ザルカ県及びマフラック県                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 事業期間   | 平成 24 年（2012 年）11 月から平成 30 年（2018 年）3 月（6 年 4 ヶ月）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 資金供与団体 | ジャパン・プラットフォーム、NICCO 会費及び寄付金                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 事業収支   | 【総事業収入】 192,275,127 円（予算額 194,949,791 円）<br>【総事業支出】 195,927,407 円（予算額 197,428,765 円）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業目的   | シリア難民及びヨルダン人貧困層を対象とするコミュニティセンターの運営とザアタリ・キャンプにおける子ども向け心理社会的サポートを通じて、生活に必要な最低限の物資支援及び弱者層のニーズに応じた支援活動を行い、生活の困窮緩和、精神保健及び生活能力の向上、並びにコミュニティにおける相互理解の促進に寄与する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 裨益者    | ザルカ県：23,606 人、ザアタリ・キャンプ：135 人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 事業内容   | ①生活支援物資の配布 ②コミュニティスペースの提供 ③メンタルヘルスケアの提供                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事業成果   | <p>①生活支援物資の配布：</p> <p>シリア難民及びヨルダン人貧困層を対象に、日常生活で必要最低限の物資の配布を通して、生活困窮の緩和に寄与した。</p> <p>a. キャッシュアシスタント：</p> <p>シリア難民 4,085 人、及びヨルダン人貧困層 2,437 人に対する現金給付支援を行った。</p> <p>b. 食糧バウチャーの配布：</p> <p>シリア難民 8,828 人、及びヨルダン人貧困層 2,612 人に対する食糧バウチャーの配布を行った。</p> <p>②コミュニティスペースの提供：</p> <p>シリア難民及びヨルダン人貧困層を対象に、安心・安全に集まれる環境において、性別や年齢層に応じた参加型のプログラムを提供し、不足している生活技能・必要情報の取得機会を通じて、長期化する不自由な避難生活に起因するストレスの緩和に寄与した。</p> <p>a. 子ども向けプログラム：367 名の子ども（ザルカ市近郊：232 名、ザアタリ・キャンプ内：135 名）が、描画、粘土、スポーツ、演劇等から構成される心理社会的ワークショップ及びスポーツ・レクリエーションに参加した。</p> <p>b. エンパワーメントプログラム：622 名の女性が手工芸及び英語、PC 教室に参加した。また、女性向けの生計向上支援において、35 名の女性が手工芸品やお菓子等の販売を通じて収入創出に取り組んだ。</p> <p>c. 啓発講座、交流プログラム等：2,311 名が、ヨルダン国内における法制度、</p> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>医療、教育等のサービスや、難民資格等、避難生活を送る上での有用情報を提供する啓発活動及び、料理作り、石鹸作り、エクササイズ、理容教室等による交流プログラムに参加した。</p> <p>③メンタルヘルスケアの提供：</p> <p>a. カウンセリングサービス：2,389名のシリア難民及びヨルダン人貧困層が、専門家によるカウンセリングや投薬等、精神保健面で必要なサービスを受け、精神衛生状態の向上や症状の改善に取り組んだ。</p> <p>b. キャパシティ・ビルディングワークショップ：55名のメンタルヘルスケア従事者が参加し、同分野における知識の強化、情報の共有、意識の啓発等に取り組んだ。</p> |
| 事業の公益性 | (1) 救援物資等の供与について                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|        | 【チェックポイント1】 事業目的                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|        | 本事業は、自然災害や地域紛争等の罹災者に対する援助を行うものであり、特定の者の利益の増進を目的としたものではなく、不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。                                                                                                                                                                                                                             |
|        | 【チェックポイント2】 事業の合目的性                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|        | 【ア】 受益の機会の公開                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|        | シリア難民を対象とした生活支援物資の配布においては、事業地であるザルカ県において幅広く希望者を募った上で実施している。ヨルダン人貧困層への配布においても、同国社会開発省ザルカ局が、行政の支援対象として登録されている貧困家庭より対象世帯を選定しており、本事業による受益の機会は一般に開かれている。                                                                                                                                                           |
|        | 【イ】 事業の質を確保するための方策                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|        | 本事業は長年にわたって自然災害や地域紛争の被災者救援活動にかかわった経験が豊富で、造詣が深い理事が事業を管理監督しており、以上によって本事業による質の確保は十分に行われていると判断する。                                                                                                                                                                                                                 |
|        | 【ウ】 審査・選考の公正性の確保                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|        | 本事業は、審査・選考を伴うものではない。                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|        | 【エ】 その他                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|        | 本事業は、自然災害や地域紛争の被災者を支援するという目的で実施しているものであり、業界団体の販売促進、共同宣伝につながる要素は一切存在しない。                                                                                                                                                                                                                                       |
|        | (2) サービスの提供について                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|        | 【チェックポイント1】 事業目的                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|        | 本事業は、自然災害や地域紛争等の罹災者に対する援助を行うものであり、特定の者の利益の増進を目的としたものではなく、不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。                                                                                                                                                                                                                             |



|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <div data-bbox="469 232 1452 277" data-label="Section-Header"> <p><b>【チェックポイント 2】 事業の合目的性</b></p> </div> <div data-bbox="469 277 1452 322" data-label="Section-Header"> <p><b>【ア】 受益の機会の公開</b></p> </div> <div data-bbox="469 322 1452 994" data-label="Text"> <p>生活支援物資の配布においては、食糧支援を統括している国際機関である国連世界食糧計画 World Food Programme(WFP)との連携の下、当会が保有する約 11,000 世帯の登録情報を WFP の支援状況と照合し、十分な支援を受けていない世帯を抽出した。加えて、難民世帯の財政状況や脆弱性の査定ツールである Vulnerability Assessment Framework(VAF)や国連難民高等弁務官 UNHCR の支援状況管理システム Refugee Assistance Information System(RAIS)を活用することで、支援の偏重や重複を可能な限り回避し、最も必要性の高い世帯に支援が行き届くよう配慮しながら物資配布を実施した。コミュニティスペースの参加者は、地元の行政、市民団体、国際 NGO 等を通じて広く告知し、公募により募っており、シリア難民のみならずヨルダン人の貧困層も受け入れており、受益の機会は一般に開かれている。また、メンタルヘルスケアについても、同様に広く告知を行った上で、シリア難民及び精神保健上の問題を抱えるヨルダン人貧困層を対象に提供しており、受益の機会は一般に開かれている。</p> </div> <div data-bbox="469 994 1452 1039" data-label="Section-Header"> <p><b>【イ】 事業の質を確保するための方策</b></p> </div> <div data-bbox="469 1039 1452 1621" data-label="Text"> <p>本事業における精神保健支援は、過去にイラク難民支援、東日本大震災被災者支援等でも当会の精神保健支援事業を監督した、トラウマケアを専門とする日本人精神科医の監督の下、十分にトレーニングを受けた現地スタッフが実施している。同専門家はメールやスカイプによる現地スタッフへの定期的なアドバイスをする他、ヨルダンの事業地を訪問し直接指導を行った。以上に加えて、心理社会的ケアにおいては、過去に当会が実施した同内容の被災者支援に従事し、豊富な実施経験と専門性を有する日本人心理士を現地に派遣し、専門家の十分な監督の下、プログラムを実施した。また、メンタルヘルスケアにおいては、現地駐在の日本人看護師が運営を担当し、ヨルダン人の精神科医、臨床心理士及びソーシャルワーカーから成るチームが、裨益者の状況に応じてカウンセリングを実施しており、専門家の適切な関与の下、本事業の質は確保されていると言える。</p> </div> <div data-bbox="469 1621 1452 1666" data-label="Section-Header"> <p><b>【ウ】 審査・選考の公正性の確保</b></p> </div> <div data-bbox="469 1666 1452 1812" data-label="Text"> <p>本事業は、審査・選考を伴うものではない。ただし、研修の実施等において定員を超えた場合についての選定は、上記ア)に記載のとおりであり、事業の目的に鑑み、公正に実施している。</p> </div> <div data-bbox="469 1812 1452 1856" data-label="Section-Header"> <p><b>【エ】 その他</b></p> </div> <div data-bbox="469 1856 1452 2002" data-label="Text"> <p>本事業は、自然災害や地域紛争の被災者を支援するという目的で実施しているものであり、業界団体の販売促進、共同宣伝につながる要素は一切存在しない。</p> </div> |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の評価 | ①妥当性（プロジェクト実施の正当性、必要性を問う）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|       | <p>当会は 2012 年 11 月に、シリア人道危機に対する初動対応としてヨルダンに逃れた難民への越冬支援を行い、ザルカ県のホストコミュニティ及びザアタリ・キャンプでの活動を開始した。その後、子どもと女性を対象にした心理社会的ケアとカウンセリングによるメンタルヘルスケアを開始し、紛争が長期化する中で、これらの活動を軸に現地のニーズに沿って活動の幅を徐々に広げながら緊急対応期における支援を行ってきた。本事業の対象地であるザルカ県は、ヨルダン国内でも貧困層が多いとされている地域で、現在約 5 万のシリア難民がホストコミュニティに滞在しているが、その多くはシリア南部の貧しい農村地域の出身で、生活難を回避する十分な資質を持ち合わせておらず、引き続き物資面及び心理社会的な側面からの支援が必要とされている。このような状況の中、本事業報告期間においては、食糧、保護及び保健の 3 セクターの対応計画に合致する活動を束ね、コミュニティセンターという運営形態で支援を継続し、ホストコミュニティにおける諸問題に包括的にアプローチしてきた。全てのプログラムは各対象セクターを管轄する省庁との調整の下に事業を実施しており、ヨルダン政府の支援方針に合致するものである。</p> |
|       | ②有効性（プロジェクトの効果を問う）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|       | <p>本事業報告期間においては、当初計画を上回る裨益者に対して支援を提供することができており、事業全体として想定以上の目標を達成することができた。各プログラムの実施において裨益者が置かれている状況やニーズに十分に配慮しながら事業を進めた点、また、多様性のあるプログラムを実施する中で、プログラム間の相乗効果を活かしながら、コミュニティセンターとして包括的な支援を行うことができた点が、目標の達成を促進した要素であると考えられる。これらの点は、適切なタイミングで必要な支援を提供する上でも重要な要素であった。一方で、ヨルダン政府による事業許可の遅れは活動を進める上での障害となったが、状況に応じた柔軟な対応を心掛け、事業の実施における大きな問題には発展しなかった。</p>                                                                                                                                                                                                     |
|       | ③効率性（プロジェクトの効率性を問う）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|       | <p>キャッシュアシスタントにおいては、当初計画では物資による支援を想定していたが、キャッシュアシスタントに変更したことで、物資の配布に際して発生し得る不正や転売による支援価値の減少リスクを最小限に抑え、裨益者により確実に支援を届けることができる点と、裨益者の尊厳及び自主性、利便性への配慮することができた。食糧バウチャー配布においては、バウチャーの交換率が非常に高く、効率性と有効性の観点からも効果的な支援であると判断している。配布日に交換店舗のスーパーでバウチャーの使用状況をモニタリングしているが、殆どの裨益者が食料品に加えて洗剤や石鹸等の日用品を購入しており、裨益者への聞き取りからは、家計が圧迫され続けている中で、家</p>                                                                                                                                                                                                                       |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>賃や食糧を優先せざるを得ない事情があり、これまで予算が回らなかった日常必需品も購入できるバウチャーの利便性に対する高い満足度が確認できた。心理社会的ケア及びメンタルヘルスケアの各種プログラムにおいては、アンケートや聞き取りを通じてニーズの把握に努めており、課題の解決に向けて必要性の高い活動を実施できるようプログラム内容の見直しを重ねながら事業を実施している。各活動の実施においては、日本人専門家の知見と経験を活用し、また現地の状況を熟知し、各活動の従事経験を有する現地スタッフ、講師、専門家が事業に携わることで効果的に事業を進めてきた。</p>                                                                                                                                                                                                                                          |
|       | <p><b>④インパクト（プロジェクトの長期的、波及的効果を問う）</b></p> <p>各活動の終了時に実施したモニタリング、アンケート、各種心理テストの結果からは、全てのプログラムに対する肯定的な評価が確認できた。食糧バウチャーの配布や越冬支援等、物資面での支援は、生活の困窮に苦しむ裨益者に対して経済的な効果をもたらし、コミュニティスペースでの活動やカウンセリングの提供は、不安・ストレス等の克服や日常感、充実感に繋がり、精神保健及び生活能力の向上を通じて、裨益者に対して心理社会的な効果をもたらすものであったと考える。また、シリア紛争の長期化に伴い避難生活が長期化する中、シリア難民の多くが、コミュニティにおいて交流関係を作る難しさや、ヨルダン人から差別感情を向けられる経験をしており、ホストコミュニティにおけるシリア難民とヨルダン人の軋轢は慢性的な課題として存在している。こうした状況において、シリア難民とヨルダン人双方を対象に支援を実施すると同時に、交流の機会を促進した本事業の活動は、コミュニティ及び個人に対する心理社会的なサポートと同時に、平和構築における効果をもたらすものであったと判断する。</p> |
|       | <p><b>⑤自立発展性（事業終了後の持続性を問う）</b></p> <p>本事業期間においては、当会コミュニティセンターの周辺地域で活動する団体とのより効果的な協力体制の構築および強化を図り、一部の活動については現地団体の施設で実施した。こうした取り組みを通じて、より多くの裨益者へのサービス提供を可能にするだけでなく、リソースやノウハウの共有を通じて、将来的に当会の活動が現地団体を通じて継続的に実施される基盤につなげることが期待できる。今後も引き続き、現地団体や省庁機関との協力体制の構築を強化していく予定である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 事業の展望 | <p>ヨルダン国内には現在約 65 万人 のシリア難民が避難しており、その 79%にあたる約 51 万人がホストコミュニティに滞在している。難民キャンプ外に滞在しているこれらシリア難民の 93%がヨルダンの貧困ライン以下での生活を強いられており、依然としてホストコミュニティに対して十分な支援が行き渡らない状況が続いている。シリアにおける和平実現の目処が立っていない現状において、本事業は引き続き緊急人道支援としての位置付けで活動を実施しており、避難生活の長期化に伴い多様化するニーズに合わせて、必要と</p>                                                                                                                                                                                                                                                               |

されるサービスを迅速且つ柔軟に提供できるよう、定期的に活動内容の見直しを図りながら事業運営に取り組んでいる。しかしながら、国際社会からの支援は削減傾向にあり、ヨルダンでのシリア危機対応における 2017 年度の必要予算約 11 億米ドルに対して、現状ではその約 54%にあたる 6 億 4 千万米ドルが不足している状態であった。今後更なる国際支援の減退が見込まれることから、ヨルダン地域社会へのノウハウの移転を念頭におきながら、資金調達の状況とニーズの分析に基づき、必要性の高い支援を可能な限り提供していくことを想定している。

### 写真報告



【写真1】食糧バウチャー配布の様子（2017 年 11 月）



【写真2】食糧バウチャー配布の説明を受けるシリア難民の様子（2018 年 1 月）



【写真3】心理社会的ワークショップ、ザアタリプログラム（2017 年 10 月）



【写真4】心理社会的ワークショップ、ザルカプログラム（2018 年 1 月）





【写真5】心理社会的ワークショップ、ザルカプログラム  
(2018年1月)



【写真6】スポーツ・レクリエーションの様子 (2017年9月)



【写真7】手工芸教室の様子 (2017年7月)



【写真8】JORIA のバザー参加の様子 (2017年4月)



【写真9】PC 教室の様子 (2017年11月)



【写真10】英語教室修了式の様子 (2018年1月)



【写真11】理容教室の様子（2017年11月）



【写真12】石鹼教室の様子（2017年9月）



【写真13】料理教室の様子（2018年1月）



【写真14】啓発講座の様子（2017年8月）



【写真15】カウンセリング、家庭訪問の様子（2018年2月）



【写真16】キャパシティ・ビルディングワークショップの様子（2017年12月）



【公 4】 緊急災害援助事業（ガザ人道）

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名    | ガザにおける人道危機の被害者に対する支援（略称：ガザ人道）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 事業地    | パレスチナ暫定自治区・ガザ地区                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 事業期間   | 平成 26 年(2014 年) 8 月から平成 30 年（2018 年）3 月（3 年 7 ヶ月）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 資金供与団体 | ジャパンプラットフォーム、NICCO 会費及び寄付金                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事業収支   | <b>【総事業収入】</b> 90,238,033 円（予算額 92,861,516 円）<br><b>【総事業支出】</b> 87,859,741 円（予算額 90,157,931 円）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 事業目的   | 安全な飲み水へのアクセスが限られている学校に対して脱塩処理施設を導入し、子どもたちが安心して学校の水を飲める体制を整える。農業分野においては、下水が引き起こす環境汚染と灌漑用水の不足に対応するため、太陽光発電設備の設置を通じたラファ市下水処理場の機能改善を図り、周辺地域の水に関わる生活環境の改善をするとともに、下水処理した水の灌漑利用に向けた農業支援を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 裨益者    | ガザ地区の学校に通う子どもたち：26,281 人<br>ラファ市マワーシー地区の住人：5,500 人<br>ラファ市マワーシー地区の農家：120 人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事業内容   | ①ガザ地区の学校に対する小型脱塩処理施設及びソーラーシステムの設置、衛生施設の修繕<br>②ガザ市北部ジャバリア地区の中央脱塩処理施設の修復<br>③生徒の水衛生分野における認識と施設稼働モニタリング能力の向上<br>④ラファ市一次下水処理場における太陽光発電設備（PV システム）の設置<br>⑤農業資機材の配布（事業内容変更により中止）<br>⑥下水処理された水の灌漑利用に関するワークショップの実施                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事業成果   | ①ガザ地区各地に位置する 10 校に対して、小型脱塩処理施設とその電力を供給する太陽光発電システムをそれぞれ設置し、衛生施設や周辺施設の修繕も行なった。これにより 7005 名の子どもたちの安全な飲み水へのアクセスを確保した。<br>②中央脱塩処理施設を 1 基修繕し、その裨益校 20 校の子どもたち 19276 人が安全な飲み水へのアクセスを確保した。<br>③小型脱塩処理施設を設置した 10 校及び中央脱塩処理施設の裨益校 20 校の教員、学校スタッフ、環境クラブの生徒を対象としたワークショップを実施した。水衛生に関する認識の向上と、脱塩処理施設を自らで適切にモニタリング管理できる体制を整えた。<br>④太陽光発電設備の設置により、（一次）下水処理場の稼働に必要な総消費電力 300kWh のうち、177.60kWh の電力が生産される体勢を整えた。なお、本事業は JICA 及び日本大使館が中心となって実施されるラファ市一帯の農家を対象とした事業へと引き継がれ、最終的にはマワーシー地区の農家 5500 人が裨益する予定である。 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>⑤事業内容変更により中止</p> <p>⑥ラファ市マワーシー地区の農家 126 人に対し、処理水の灌漑利用に関するワークショップを実施した。ワークショップ後の理解度テストの結果から、処理水とその灌漑利用に関する参加者の認識の向上を確認した。</p>                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事業の公益性 | (1) 救援物資等の供与について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|        | <b>【チェックポイント 1】 事業目的</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|        | <p>本事業は、自然災害や地域紛争等の罹災者に対する援助を行うものであり、特定の者の利益の増進を目的としたものではなく、不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|        | <b>【チェックポイント 2】 事業の合目的性</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|        | <b>【ア】 受益の機会の公開</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|        | <p>脱塩処理装置導入校の選定においては、ガザ教育省と調整を図り、安全な水の確保が容易でなくなっている候補校リスト 31 校の中から、特に支援が必要とされる 10 校を選定した。選定は公平を期するため、独自の選定基準（2014 年の戦闘の影響の程度、学級の種類・生徒数、利用されている水資源と水質、現在の水のアクセスと既存施設の状況等）にしたがって点数システム（例：YES＝10 点、NO＝5 点または 0 点）を用い、各学校を直接訪問し実際の状況を確認した上で最終的な裨益校を決定した。</p> <p>また、ラファ市下水処理場における太陽光発電施設の設置について、当該下水処理場はガザ地区にある 5 つの下水処理場の中で唯一、他国際ドナーによる支援が未だ実施されていない処理場となっており、ガザ農業庁による事業実施の推奨を受けた上で事業の実施をした。</p> |
|        | <b>【イ】 事業の質を確保するための方策</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|        | <p>ガザ地区内の現地提携団体に所属する農業技師、水管理の専門家がニーズの確認を行い、太陽光発電施設及び脱塩処理施設の導入の際は技術的及び専門的な知見から施工業者に対する監督と指示を行った。以上により本事業の質は確保されていると言える。</p> <p>また本事業は、長年にわたって自然災害や地域紛争の被災者救援活動にかかわった経験が豊富で、造詣が深い理事が事業を管理監督しており、以上によって本事業による質の確保は十分に行われていると判断する。</p>                                                                                                                                                           |
|        | <b>【ウ】 審査・選考の公正性の確保</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|        | <p>本事業は、審査・選考を伴うものではない。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|        | <b>【エ】 その他</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|        | <p>本事業は、自然災害や地域紛争の被災者を支援するという目的で実施しているものであり、業界団体の販売促進、共同宣伝につながる要素は一切存在しない。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | (2) サービスの提供について                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|       | 【チェックポイント 1】 事業目的                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|       | 本事業は、自然災害や地域紛争等の罹災者に対する援助を行うものであり、特定の者の利益の増進を目的としたものではなく、不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。                                                                                                                                                                                                                     |
|       | 【チェックポイント 2】 事業の合目的性                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|       | 【ア】 受益の機会の公開                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|       | 脱塩処理装置の導入にかかる水の衛生知識・有効利用のワークショップについては、同施設の裨益校の教員・マネージャー・環境クラブに所属する生徒を対象に行い、他生徒に対してはワークショップに参加した環境クラブの生徒がワークショップで学んだ知識を他の生徒に伝達する手法（ピアラーニング）によってカバーすることとした。なお、ワークショップ後には裨益対象校の全生徒に水に関する啓発メッセージが込められた文房具を配布した。<br>下水処理された水の灌漑利用に関するワークショップについては、ラファ市マワーシー地区の CBO（農業組合）と連携して告知を行い、JICA との調整も行った。          |
|       | 【イ】 事業の質を確保するための方策                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|       | 脱塩処理施設の設置及び太陽光発電施設については、同様の支援事業を過去に行った事のある現地提携団体スタッフの監視・指導の下、専門知識、経験のある工事業者によって作業が行われた。                                                                                                                                                                                                               |
|       | 【ウ】 審査・選考の公正性の確保                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|       | 本事業は、審査・選考を伴うものではない。ただし、研修の実施等において定員を超えた場合についての選定は、上記ア)に記載のとおりであり、事業の目的に鑑み、公正に実施している。                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業の評価 | 【エ】 その他                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|       | 本事業は、自然災害や地域紛争の被災者を支援するという目的で実施しているものであり、業界団体の販売促進、共同宣伝につながる要素は一切存在しない。                                                                                                                                                                                                                               |
|       | ①妥当性（プロジェクト実施の正当性、必要性を問う）                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|       | 2014 年の戦闘以降、ガザ地区の各学校を管轄するガザ教育省では小型脱塩処理施設の設置を推奨しており、地域のニーズを反映して小型脱塩処理施設の設置を行っている。また、慢性的な電力不足に苦しむガザ地区の事情を鑑み、小型脱塩処理施設の電力供給源としてソーラーシステムも併設した本事業の妥当性は高いといえる。<br>ラファ市はガザ地区の中でも特に雨量が少なく、2014 年の戦闘による被害と合わせて農家の生活は困難な状況にあり、当会が行なったニーズ調査においても、同市マワーシー地区の農家の大多数が慢性的な水不足によって安定的な収入が得られていないことがわかっている。そのため、同地区の農家の |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>生活向上に対応して 1 次下水処理場の電力不足を解消し、処理水の灌漑利用を目指した太陽光発電施設の設置には高い妥当性があるといえる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|  | <p><b>②有効性（プロジェクトの効果を問う）</b></p> <p>学校における小型脱塩処理施設の設置については、概ね当初の計画通りの成果を得たが、2 シフト制を想定していた裨益対象校 10 校の内、1 シフトしか行なっていない学校があったため、実際の裨益者数は想定よりも微減することとなった。その一方で中央脱塩処理施設の修繕については、裨益対象校 20 校の内 2 シフト以上の体制をとっている学校が複数あったことにより（計 30 シフト）、裨益者数が大幅に増加することとなった。</p> <p>下水処理場への太陽光発電施設の設置については、深刻さを増すガザ地区の電力事情に対して、より根本的な問題解決策を提供するものであり、その有効性は極めて高いものである。</p>                                                                                 |
|  | <p><b>③効率性（プロジェクトの効率性を問う）</b></p> <p>本事業における業者の入札や裨益者の選別は、適切な手順と規則に従って行われた。入札においては、新聞に広告を掲載して広く公募し、選別の際は候補業者が提示した価格に加えて、イスラエルによる封鎖下にあるガザ地区の特殊な事情を鑑み、技術レベルや経験値などについても勘案し決定した。ガザ域外からの調達が必要な機材もあったが、予定されていた工期中に全て調達を完了している。また、本事業当初の予算配分の見直しを行うことで、予定よりも多くのソーラーパネルを設置し、目標とする生産電力数よりも高い数値を生産する体制を整えることができた。中央脱塩処理施設の修繕においては、再利用可能な部品はそのまま利用するなどして可能な限り費用対効果を向上させるよう調整を行い、目標とする成果の達成に貢献することができた。</p>                                   |
|  | <p><b>④インパクト（プロジェクトの長期的、波及的効果を問う）</b></p> <p>学校における脱塩処理施設の設置及び中央脱塩処理施設の修繕を通して、子どもたちが学校で安全な水を飲めるようになり、特に夏季に水が飲めずに授業に臨まなければならなかった子どもたちに対して、安心して学校に通える教育の機会を提供できるようになった。また、ガザにおける疾病の 3 割が水に起因したものとされる中で、本事業は子どもたちの健康リスクの軽減にも寄与するものである。</p> <p>太陽光発電設備の設置については、ガザ地区の喫緊の課題となっている電力不足、水不足、それらに伴う地下水の汚染や海洋汚染を緩和する体制を整えたことで、マワーシー地区の住民全体の水環境向上に寄与することができた。さらに同地区の農家に対しては、将来的には本事業の成果を通して灌漑用水が確保されることとなり、農家たちの安定した収入の確保に間接的に寄与するものである。</p> |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>⑤自立発展性（事業終了後の持続性を問う）</p> <p>学校に設置した脱塩処理施設のモニタリング管理については、本事業で実施したワークショップを通じて在校生徒を含む学校関係者に指導を行っており、安全な飲料水へのアクセスを自ら確保できる体制を確立した。またそれとは別に、設置を担当した施工業者から 2 年間の保証期間を付与されており、その期間中は各校の教員と学校スタッフからなる技術委員会が水や施設の状況を定期的にチェックし、異常が見られた場合には業者へ問い合わせ、その後業者が直接メンテナンスをする仕組みとなっている。保証期間以降は、技術委員会は教育省へと問い合わせを行い、教育省から依頼を受けた業者がメンテナンスすることになる。</p> <p>ラファ市下水処理場に設置した太陽光発電設備については、設備が適切に管理され持続的に利用されるよう、生産された電力を管理する GEDCO (Gaza Electricity Distribution Company) と太陽光発電設備の譲渡先であり実際の管理を担当する CMWU (Coastal Municipalities Water Utility) との二者間で覚書を締結した。また設置工事の施工業者からは 2 年間の無償メンテナンスを保証されており、その一環として設備の適切な管理方法についてのワークショップも CMWU スタッフに対して実施された。</p> |
| 事業の展望 | <p>学校への太陽光発電設備の設置及び脱塩処理設備の導入・修復を行ったことにより、本事業によって裨益する子どもたちの数は経年とともに増加する見込みである。</p> <p>またラファ市下水処理場への太陽光発電設備事業では、現在 JICA と日本大使館が中心となって実施されている、農業利用を目的とした下水の再処理計画の一端を担うものであり、今後ラファ市の住民全体に対して大きな効果を発揮するものである。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |



写真報告



【写真1】水衛生分野における認識と施設のモニタリング能力の38向上のためのワークショップを視察する当会スタッフ（右）（2017年5月）



【写真2】学校の屋上に設置された小型脱塩処理施設の視察を行う当会スタッフ（右）（2017年7月）



【写真3】修繕された学校の水飲み場を視察し、学校関係者に聞き取りを行う定型団体スタッフ（中央）（2017年9月）



【写真4】下水処理された水の灌漑利用に関するワークショップの様子（2018年1月）



【写真5】下水処理場脇に設置された太陽光パネル（2017年9月）



【写真6】太陽光パネル脇に設置されたインバーター（2018年3月）

## E. 調査事業

### 1. 調査・評価

【公5】調査・評価事業

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名     | 調査・評価事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 事業地     | 日本国内及び海外事業地                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 事業期間    | 平成 29 年（2017 年）4 月から平成 29 年（2017 年）3 月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 資金供与団体  | NICCO 会費及び寄付金                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業収支    | 【総事業収入】163,988 円（予算額 475,554 円）<br>【総事業支出】738,370 円（予算額 835,070 円）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 事業実施の経緯 | 本会の設立趣意に基づき、適正に活動を実施するための調査を実施する。<br>終了事業の報告書作成や評価を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 事業目的    | 今後の案件形成のための調査及び実施案件の報告書作成と評価を実施する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 事業内容    | 新たな案件形成のため、日本国内及び途上国に役職員を派遣し、行政、国際機関、住民への聞き取りや、事業予定地の現状の調査を実施する。また、前年度までに実施した事業について、報告書の作成を行い、事業地を訪問してその後の状況を確認し、モニタリングと評価を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 事業成果    | <p>①<u>レソト</u></p> <p>2017 年 4 月 5 日～4 月 7 日現地調査を実施。<br/>小野理事長、小野専務理事（当時）、松井理事（当時）、多田ケニア事務所長（当時）、岡田事業部長の 5 名。<br/>レソト外務省の案内の元、各省庁（大統領秘書官、外務省、水資源省、エネルギー省、観光省、ジェンダー省）、Bishop Allard 職業訓練校を訪問。<br/>また、管轄する在南アフリカ日本国大使館を訪問。<br/>その後、Bishop Allard 校より事業提案書が届いたが、ほとんどが服飾に関するものであったため、当会の活動に合わない判断し、今回は見送ることとした。</p> <p>②<u>インド：ビハール州ガヤー県ブッダガヤ市バタスプール村</u></p> <p>クマール氏（静岡県浜松市内でインド料理店経営）の訪問を受け、バタスプール村での案件形成のための現地調査に向けて、現地 NGO など各方面を調整中。2018 年 4 月外務省・NGO 事業補助金申請済み。</p> <p>③<u>ミャンマー：カレン州シュエドウ村及びメティヨ村</u></p> <p>京都洛南ロータリークラブの支援によるエコサントイレ 5 基の建設・モニタリングとあわせて、過去の本会事業のモニタリングを実施した。</p> <p>&lt;以下、現地スタッフからの報告&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 村落ファンドによる保健ボランティアの活動を確認（シュエドウ、メティヨ、チョウンカウン、ミヤインゴン）。</li> <li>● また、最近 H1N1（ブタインフル）が流行しているが、保健ボランティアたちが助産師と一緒にワークショップを開催していました（助産師のフェイスブックにアップされていた）。当時のポロシャツを着用して、当時の</li> </ul> |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>手洗い啓発資料等を用いながらボランティアさんたちが活動しており、結構感慨深いものがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エコサントイレの使用は継続（シュエドウ）。建設マニュアル等（資材業者一覧等も付録）はビルダーらによりきちんと保管されており、材料の買い付け（当時は本会がしたので）から全てできるようになった。最後の研修時に江崎氏とビルダーが話をした、竹を組んで床の骨組みとする案を今回は採用していた。</li> <li>● 建設を見学した他村の住民に質問をうけたビルダー（兼エコサン啓発ボランティア）がメリットを説明したところ、その住民からの要望により、他村にモデル基を建設する予定となっている。ビルダーは、材料費はもちろん、交通費・人件費を計算して請求できることになっている。もちろん、使用状況の確認等に注意は必要ですが、こうした他村に請われて出張で建設するというのは、事業終了時に「5年後くらいにこうなってるといいね」と話していた内容でしたが、結構早くに実現しそうで嬉しい。</li> <li>● ブタ銀行ならびに保健ボランティアへの経費支出の継続を確認（シュエドウ、メティヨ、チョウンカウン、ミャインゴン）。ブタの出産や、新規販売ルートの獲得（タイ側からの買い付けなど）、村内での子ブタ販売による販売家庭の増加、等々が確認されている。チョウンカウンに関してはブタに使用用途を絞らず貸付をおこなっている。これは実は JPF 時代からコミュニティから要望もあったのですが、事業終了までは他の村と同様のスキームで運用してもらっていたので、もともと同村は他に比べていろいろなビジネス機会へのアクセスができる土地のため、これからうまく運用していけるかと思う。ただし、同村でもブタの飼育や当時配布した繁殖用のオスブタを活用した収入創出などは現在まで継続されている。</li> <li>● とくにエコサントイレについては、建設数からみた規模は同国のプロジェクトは小さかったのですが、将来像のようなものも見えてきており、団体のこれまでの実施事業のなかでも、非常に興味深い事例になっていると言えるのではないのでしょうか。</li> <li>● ブタ銀行委員会は1年で1-2基の建設を目標に新規のエコサントイレ建設の準備を始めていた。ブタ銀行の委員長と書記との話し合いでは来年から始める予定であるとのこと。</li> </ul> |
| 評価・課題 | <p>事後のモニタリング・評価を重視した活動を行い、より良い活動につなげられるように図る必要がある。事前調査・事後調査のための資金調達が難しい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 展望    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● インドは、助成金が取れ次第、現地調査・案件形成を行い、N連もしくはJICAへの助成金申請を行う。</li> <li>● ミャンマーについて、京都洛南ロータリークラブの支援とあわせてフォローアップを行ったが、今後は本会独自で事業終了後のモニタリングを実施していく。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

写真報告



【写真①】レソト大統領の私設秘書官らと（レソト、2017年4月6日）



【写真②】BishopAllard 職業訓練校視察（レソト、2017年4月6日）



【写真③】利用状況のヒアリングを受ける利用者（2018年3月、ミャンマー・シュエドウ村）



【写真④】エコサントイレの適切な利用方法のデモンストレーション（ミャンマー）



## F. 広報啓発事業

### 1. 広報啓発

【公6】広報啓発事業

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名    | 広報啓発事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 事業地    | 日本国内                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 事業期間   | 平成29年（2017年）4月から平成30年（2018年）3月（1年）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 資金供与団体 | 平成29年度外務省 NGO 環境整備支援事業「NGO 相談員」、NICCO 会費及び寄付金                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事業収支   | 【総事業収入】3,006,005 円（予算額 2,885,110 円）<br>【総事業支出】4,874,127 円（予算額 4,945,831 円）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 事業目的   | 日本の市民社会に対して、当会の活動をはじめとする国際協力活動や環境保全活動、災害援助活動に関する広報、啓発、人材育成を行うために実施。活動に対する関心と理解を促進し、もって国際的な相互理解と平和の推進に寄与する。活動資金となる会費・寄付金を獲得する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 裨益者    | 日本国内の一般市民                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業内容   | 会誌の発行、インターネットでの情報発信、マスメディアに対して情報発信、講演活動、イベント出展、個別訪問等の機会を捉えて、支援者をはじめ、個人、団体、企業等に対して、広報・啓発を行うことで、活動に対する広い認知と理解、活動の継続と支援の必要性、市民参画の重要性を訴えた。また、国際社会で活躍できる人材の育成のため、京都本部にてインターンを募集し、実務研修を実施した。この他、法人における危機管理広報などに対応した。                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 事業成果   | <p>①印刷物による広報<br/>会誌「リリーフ・アクション」の発行や広報印刷物の作成と配布：会誌「リリーフ・アクション」第54、55号を発行し、会員・支援者に送付した他、イベント等の機会に配布した。</p> <p>②インターネットによる広報<br/>ホームページ、ブログ、SNSなどでニュース性のある情報を発信した。</p> <p>③イベントによる広報<br/>関西圏を中心に国際協力イベントへの参加、自主イベントの開催、チャリティイベントの後援などで対面形式の広報を行い広く市民や学生に活動を紹介し、ボランティア活動、インターンシップ等への参画を促した。（計14回）</p> <p>④マスメディアによる広報<br/>マスメディアによる広報：マスメディア向けに事業活動やイベント広報などに関するプレスリリースを計7回発信し、メディア登場回数は計11回となった。</p> <p>⑤講演や訪問の受け入れ<br/>上記のイベント会場や大学等にて、講演や講義を行った他、学生等の訪問者に対して、事業説明や報告を個別に行った。（講演回数：計12回）</p> <p>⑥企業との連携</p> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>京都 CSR 研究会への参加の他、個別に企業を訪問し、東日本大震災・国際協力活動等への社会参画について理解を促した。</p> <p>⑦市民からの国際協力に対する質問や NPO 法人設立などの相談に応じるなど、国際協力全般や市民活動に関わる相談に対応した。</p> <p>⑦インターンシップやボランティアなど市民の参画</p> <p>インターンシップやボランティアによる事務処理や派遣前の研修：<br/>京都本部において事業管理や広報に関する事務処理や、会計実務について実務訓練を行った。以上の研修を経てケニアに 3 名、ヨルダンに 3 名が派遣され、事業地において実務研修を実施した。</p> |
| 事業の公益性 | <p>(1) 技術協力・人材育成</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|        | <p>【チェックポイント 1】講座・セミナー・育成が不特定多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置づけ、適当な方法で明らかにしているか？</p>                                                                                                                                                                                                                            |
|        | <p>この活動は、災害や地域紛争、貧困、環境問題などの情勢や諸問題、その対策について社会的理解の促進を目的に実施するものであり、不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。</p>                                                                                                                                                                                                                |
|        | <p>【チェックポイント 2】当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか？</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |
|        | <p>本活動の広報・啓発活動は、例えば、本会の会報誌については、国際協力や環境保全、難民支援、東日本大震災支援活動等に関心のある者が関係機関訪問時やイベント・講演会などへ参加時に、自由に閲覧できるよう、当該機関に無料で配布している。また、各活動報告や成果を紹介する当会ウェブサイトや新聞・テレビ・ラジオ等マスメディアによる紹介についても、誰でも閲覧・視聴可能である。このように、この取組は広く一般を対象として実施するものであり、受益の機会是一般に開かれている。</p>                                                                  |
|        | <p>【チェックポイント 3】当該講座等及び専門知識・技能等の確認行為に当たって、専門家が適切に関与しているか？</p>                                                                                                                                                                                                                                                |
|        | <p>広報・啓発活動の内容は、本会が海外あるいは東日本大震災被災地を含む日本国内の各事業地で実際に実施している国際協力活動や環境保全対策、災害援助活動で得た知見・経験をもとにしている。また、こうした活動を通じて連携関係にある協力団体や専門家等も、会誌や Web サイトなど広報物の執筆者として、または講演時に講師として参画しているため、事業の質は確保されている。</p>                                                                                                                   |

|       |                                                                                                                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p><b>【チェックポイント4】講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか？</b></p> <p>当該年度における、講師等への謝金報酬は、講演内容や講演時間、講師の経験等に基づき支払っており、過大な報酬が支払われた事実はない。</p>                                 |
| 事業の評価 | <p><b>①妥当性（プロジェクト実施の正当性、必要性を問う）</b></p> <p>本活動は、本会の活動を広く一般の市民に情報を提供し、賛同者を集めるために実施している。賛同者を集める活動は市民活動としての基礎となる。</p>                                             |
|       | <p><b>②有効性（プロジェクトの効果を問う）</b></p> <p>本活動の目標は、本会が実施する国際協力活動や災害被災者支援の市民への情報提供、理解促進であり、目標に基づき情報を発信出来ている。</p>                                                       |
|       | <p><b>③効率性（プロジェクトの効率性を問う）</b></p> <p>本活動は、会費などを使用し実施されており、常にコスト削減を追求している。また、インターネットなど実費がかからない方法を選択して、情報を発信している。</p>                                            |
|       | <p><b>④インパクト（プロジェクトの長期的、波及的効果を問う）</b></p> <p>本活動は、本会発足時から脈々と継続されており、その結果が現在の本会の会員数、寄付者数、寄付金などに表れている。関西の市民活動としての NGO 団体としては、比較的規模が大きく市民からの支持の現れであると考ええる。</p>    |
|       | <p><b>⑤自立発展性（事業終了後の持続性を問う）</b></p> <p>本活動は人材育成を目指したインターンシップ制度を実施しており、研修を修了した研修生が、官公庁、民間企業、NGO などの国際協力や市民活動の分野で活躍している。このことより、本活動は、本会の目的を持続的に発展させることに寄与している。</p> |
| 事業の展望 | <p>今後も広く市民へ広報啓発活動を行い、支援者を増やしていく。</p>                                                                                                                           |

写真報告



【写真1】シリア難民支援事業のスタッフと専門家が一時帰国した際に、自主開催イベント「かけ・そばトーク6」を開催し活動報告を行った。(2017 年 4 月)



【写真2】大学生が主催するスポーツイベントでの講演を依頼され、シリア難民支援について講演を行った。(2017 年 9 月)



【写真3】「清水寺で世界を語る」イベントの開催実行委員会に加わり、清水寺にて啓発活動を行った。(2017 年 11 月)



【写真4】京都府が主催する「あすの Kyoto・地域創生フェスタ」にブース出展し啓発活動を行った。(2017 年 11 月)



【写真5】立命館大学より講師を依頼され、講演を行った。(2017 年 12 月)



【写真6】ヨルダン事務所長が一時帰国し、マスコミを対象にした報告会を実施、記事として掲載された。(2017 年 3 月)